

アルプスのロマンシュ語

鈴木 雅 光

“Stai si defenda romantsch tiu vegl lungatg.”

(Stand up, defend Romansh, your old language.)⁽¹⁾

- 1 はじめに
- 2 スイスの多言語政策
- 3 話者数
- 4 5つの方言
- 5 衰退の原因
- 6 活性化の試み
- 7 言語的姿勢
- 8 まとめ

1 はじめに

国境地帯に少数民族や少数言語が観察されることがよくある。スイスとイタリア国境地帯にも少数言語であるロマンシュ語が観察される。ロマンシュ語は「化石語」(fossil)と称されることがあるように、古代ローマ帝国の時代に使用された言語の名残の言語である。もし、シーザー時代のローマ人に遭遇したら、最も言葉が通じるのがロマンシュ語を話すスイス人、と言われている⁽²⁾。

話者人口は、2000年の国勢調査によれば、35,100人で、大半が高齢者層

である。放っておくなら消滅の道を辿るかもしれない言語であり、アジェージュ (2004: 129) の言う「相続人のいない言語」に属する。本稿は、スイス南東部、アルプス地帯に散在するロマンシュ語の現状と保護活動について述べる。

2 スイスの多言語政策

少数言語の保護や促進にヨーロッパ諸国は力を入れている。「ヨーロッパ地方言語・少数言語憲章」(European Charter for Regional or Minority Languages) は、欧州評議会 (Council of Europe) で 1992 年に採択された。本憲章はヨーロッパの地方言語や少数言語を保護、維持、及び促進するための憲章である。

これまでこの憲章に批准した国は、イギリス、オーストリア、オランダ、スイス、スペイン、デンマーク、ドイツ、ノルウェーなど 19 ヶ国にのぼる。例えば、オランダは 1996 年に批准した。保護の対象となっている言語には、イディッシュ語、低ザクセン語、フリジア語、リンブルフ語、ロマ語がある。イギリスでは 2001 年に批准した。保護の対象となっている少数言語として、アイルランド語、ウェールズ語、スコットランド・ゲール語、コーンウォール語、スコットランド語 (北アイルランド)、マン島語がある。EU に加盟していないスイスですら、この憲章には 1997 年に批准した。対象となる言語はイタリア語とロマンシュ語の 2 言語である。

スイスには国語 (national language) として、1834 年以来、ドイツ語、フランス語、イタリア語があったが、1938 年から、ロマンシュ語も国語に加わった。なぜ話者数の極端に少ない言語が加わったかという点^①、これには政治的な背景があった。1938 年、ムッソリーニのイタリアが、ロマンシュ語をイタリア語の一方言と主張しはじめたことに、スイスは対抗し、国民投票で国語に認定したのであった。そして 1996 年に憲法の言語条項を改正し、ロマンシュ語を公用語 (official language) に認定した。

4 言語が国語かつ公用語に定められているスイスは、多言語国家であり、比較的うまく複数の言語が共存している国として知られている。その理由として、スイスの言語政策が効果的に機能しているということがあげられる。例えば「多数言語を中心とする言語統合を禁じたり、同じ言語を話す住民の併合を禁ずるとともに、市民の言語権や当局の言語に関する義務を明らかにしている」⁽⁴⁾。多言語集団が自らの言語を押しつけたりせず、互いの言語を尊重しているのである。法律によっても、少数言語を守る姿勢が打ち出されている⁽⁵⁾。少数言語と言えば、不幸な言語と思われがちだが、国家の政策で保護された幸福な言語もあるのである。

3 話者数

2000 年の Federal Population Census を見ると、スイス連邦内で使われている言語とその人口は、次のようになっている⁽⁶⁾。1990 年と 2000 年を比較する。

	1990 年	2000 年
人口合計	6,873,700	7,288,000
ドイツ語	4,374,700	4,640,400
フランス語	1,321,700	1,485,100
イタリア語	524,100	471,000
ロマンシュ語	39,600	35,100
スペイン語	116,800	77,500
セルボ・クロアチア語	109,000	111,400
他のスラブ諸語	18,600	23,300
ポルトガル語	93,800	89,500
トルコ語	61,300	44,500
英語	60,800	73,400
アルバニア語	35,900	94,900
その他の言語	117,400	142,000

ロマンシュ語は、ロマンス語派に属し、スイスとイタリア国境沿いのアルプスに分布している。このアルプスは、スイス南東部のグラウビュンデン州 (Graubünden) にあり、ロマンシュ語はアルプス北山麓の村人に話されている。ロマンシュ語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、及び英語による表記は、それぞれ rumantsch, Romanisch, romanche, romancio, Romansh となる。話者人口は、上の表で見たようにスイスの人口約 730 万のうちの約 0.5% で、約 3 万 5 千人である。一般的に言えば、話者が少ない共同体は常に危険である。人口が少ないと人口が多い言語に比べて絶滅しやすいからである⁽⁷⁾。

4 つの公用語の中でロマンシュ語の人口が極端に少ない。20 世紀の 100 年間の話者人口を見ると、1980 年代までは 1,000 人から 2,000 人ずつの増加傾向にあったが、1980 年代を境に急激に減少しているのが分かる⁽⁸⁾。

1900	38,651	1960	49,823
1910	40,234	1970	50,339
1920	42,940	1980	51,128
1930	44,158	1990	39,632
1940	46,456	2000	35,095
1950	48,862		

スイスには 4 つの公用語以外にも使われている言語がある。ロマンシュ語程度の話者人口を持つ言語は、全部で 10 言語以上にのぼる。ロマンシュ語話者数の減少の理由については 5 節で述べる。

4 5つの方言

ロマンシュ語は、3 つの言語群からなるレト・ロマンス語 (Rhaeto-Romance) に属する。他の 2 つの言語は、イタリア北部のドロミテ山岳地帯で話されているラディン語 (Ladin) で、話者数は約 3 万人である。もう一つは、イタリア北東部とスロベニア国境付近のフリウリ地方で話されているフリウリ語 (Friulian) で、話者数はレト・ロマンス語最大で約 50 万人である。

ロマンシュ語は5つの方言を持つのが大きな特徴である。5つとは、スルシルヴァ方言 (Sursilavan)、ストシルヴァ方言 (Sutsilvan)、スルミラン方言 (Surmiran)、ピュテール方言 (Puter)、及びヴァッラーデル方言 (Vallader) である。前の3つはライン方言 (Rhine Dialect)、後の2つはエンガディアン方言あるいはラディン方言 (Engadine or Ladin Dialect) と言われる。例えば、「犬」はそれぞれの方言では順に、tgaun, tgàn, tgang, chaun, chan となる。話者人口が少ないにもかかわらず、5つも方言があるのは不思議な気もするが、それは地形の影響である。

ここは飛び地となっており、谷ごとに話し方が異なるのである。険しい谷があるためそれぞれの方言はまとまることはなく、そのため共通語が成立することもない。グラウビュンデン州の州都はクール (Chur) であるが、この地域には政治的、文化的な統合の核となる中心地は存在していないと言われている⁽⁹⁾。この地方独特の谷が方言を分断しているのである⁽¹⁰⁾。共通語としてはドイツ語が優勢言語となっている。

これらの方言が話される地域は、リゾート地として観光開発が進められてきた。その結果、ドイツ資本が注入され、ドイツ語を取得することが観光地で働く人のもっぱらの関心事となっている。もしロマンシュ語かドイツ語かの二者選択 (either-or choice) に迫られると、UNESCO の *Language Vitality and Endangerment* (2003) に指摘されているような結果になるのは予想されることである。

either you cling to your mother tongue and identity but don't get a job, or you leave your language and have better chances in life.(p. 15)

(母語とアイデンティティに固執すると仕事には就けない、あるいは母語を捨てて人生のよりよい機会を得るかだ)

実際、多くの人々は経済的な魅力に引かれて、ドイツ語にシフトするの

である。ロマンシュ語を最もうまく操れる (best command) 人と、主要な言語 (primary language) ではないが話せる 62,353 人のうちほぼ 80 パーセントが multilingual である⁽¹¹⁾。スイス連邦政府は保護政策を試みてはいるものの、ロマンシュ語は衰退する特徴を備えていると言えよう。今後、若い世代が親の世代の言語を相続しないと「明らかに危険」“definitely endangered”な状態になってしまうだろう⁽¹²⁾。

5 衰退の原因

Lia Rumantscha (ロマンシュ同盟) は、ロマンシュ語の保護及び促進活動を行っている団体であり⁽¹³⁾、1919 年に設立された。Lia Rumantscha は、ロマンシュ語衰退の理由として次のような理由をあげている。

- ・ 経済的文化的中心の欠如。
- ・ 同一言語を話す広いコミュニティの欠如 (言語の発展と計画の問題に外部の支援がない)。
- ・ スイス国内でのドイツ語圏への経済的依存。
- ・ ドイツ語の電子メディア、定期刊行物及び出版物の主要な影響。
- ・ 公的場面や私企業におけるロマンシュ語の不当な扱い。
- ・ ロマンシュ語自体がいくつかの書き言葉に分裂 (地元のアイデンティティと州の自主独立主義的傾向を促進)。
- ・ ロマンシュ語に対してある種の存在を容易にする文語標準ロマンシュ語の欠如 (1980 年まで)。

上記以外のロマンシュ語の衰退の理由として、高等教育機関の欠如もあげられる。グラウビュンデン州には大学は設置されていない。従って、若者は高等教育を求めて地域社会を出ていくのである⁽¹⁴⁾。若者がこの地域に留まるだけの魅力が経済的にも教育的にもないのである。

5 つの方言をまとめた標準ロマンシュ語である「ルマンチャ・グリシュン」(Rumantsch Grischun) の正書法が考案されている。スイス連邦政府や

州政府は1つだけの標準ロマンシュ語を望んではいるものの、1つを選べば他の4つは排除されることになるので、標準化の議論は難しいものがある。2010年からルマンチャ・グリシュンが学校で読み書き用の言葉として使用されることになっているが、この政策は支持されていないという⁽¹⁵⁾。Lia Rumantschaは5つの方言を促進させようとしている⁽¹⁶⁾。しかしこれは果たして可能であろうか。かなりの経済的負担になるだろう。

6 活性化の試み

「ヨーロッパ地方言語・少数言語憲章」はスイス連邦政府に対して、ロマンシュ語を保護する目的及び原則を次のように述べている (Part II Article 7 — Objectives and principles)。少数言語の保護活動をする際に、示唆に富むことが述べられているので、少し長いが引用してみる。

In respect of Romansh, within the territories in which Romansh is used and according to the situation of Romansh, Switzerland shall base its policies, legislation and practice on the following objectives and principles:

- a. the recognition of Romansh as an expression of cultural wealth;
- b. the respect of the geographical area of Romansh in order to ensure that existing or new administrative divisions do not constitute an obstacle to the promotion of Romansh;
- c. the need for resolute action to promote Romansh in order to safeguard it;
- d. the facilitation and/or encouragement of the use of Romansh, in speech and writing, in public and private life;
- e. the maintenance and development of links, in the fields covered by this Charter, between groups using Romansh and other groups in the State employing a language used in identical or similar form, as well as the establishment of cultural relations with other groups in the State using different languages;

- f. the provision of appropriate forms and means for the teaching and study of Romansh at all appropriate stages;
- g. the promotion of facilities enabling non-speakers of Romansh living in the area where it is used to learn it if they so desire;
- h. the promotion of study and research on Romansh at universities or equivalent institutions;
- i. the promotion of appropriate types of transnational exchanges, in the fields covered by this Charter for Romansh used in identical or similar form in two or more States.

(ロマンシュ語が使われている地域と、ロマンシュ語の状況に応じて、ロマンシュ語に敬意を払い、スイス連邦政府はその政策、法令及び実践を以下の目的及び原則に基づくべきである。a. 文化的財産の表現としてのロマンシュ語の認識。b. 現存のあるいは新たな行政課が、ロマンシュ語の促進に対する障害を制定しないことを保証するためにロマンシュ語の地理的地域への敬意。c. ロマンシュ語を保護するためにロマンシュ語を促進する断固たる行動の必要性。d. 話し言葉と書き言葉において、公的と私的な生活において、ロマンシュ語使用の促進及び／または奨励。e. この憲章によって保護される分野において、スイス国内で異なる言語を使用する他の集団との文化的関係を確立するのみならず、ロマンシュ語を使う集団と同一のあるいは同様の形式で使われている言語を使用しているスイス国内の他の集団とのつながりの維持と発展。f. あらゆる適切な段階でのロマンシュ語の教育と研究のための適切な形式と手段の供給。g. ロマンシュ語が使われている地域に住んでいるロマンシュ語話者でない人々に、望むならロマンシュ語を学習ができるようにする施設の促進。h. 大学もしくは同等の機関でロマンシュ語の研究と調査の促進。i. 2ヶ国以上の国で、同一のあるいは同様の形式で使用されているロマンシュ語に対してこの憲章によって保護されている分野での、国境を越えたやりとりの適切な型の促進。)

要約してみると次のようになる。ロマンシュ語を文化財として認め、ロマンシュ語の促進に障害となるようなものは作らず、促進のために断固たる行動が必要である。口語や文語、公や私的な生活において、ロマンシュ語を使うことを奨励し、ロマンシュ語を使う集団間のつながりを持ち、すべての段階でロマンシュ語の教育と研究を進めるために努力する。また希望するならロマンシュ語が話せない人にも、学習が可能な施設を作り、大学などの研究機関でロマンシュ語を研究調査し、国家を越えた意見交換の促進が必要である。このような手厚い保護があれば、ロマンシュ語の衰退を食い止め、活性化することが可能であろう。それには外部の協力も重要である。

現在英語が世界中に広まっていることを考えると、ロマンシュ語の実状を英語で発信することも重要であろう。英語が優勢な言語になっていることを活用するのである。しかし、我々がロマンシュ語関連の英文資料を得るのは必ずしも容易なことではない。ウェブサイトを見ると、断片的に資料を見ることができる。しかし、それらを閲覧してロマンシュ語の知識を得たとしても、優勢な言語、例えば英語に比較すれば無いのに等しい。需要と供給のバランスから言えば無理もないと言えるが、果たしてそれでいいのだろうか。このような現状を踏まえると、外部の協力者を多く獲得することが必要である。

最近、外部の個人や団体レベルでのロマンシュ語に対する貢献が現れて来ている。英国人の言語学者による英語のオンライン辞書が登場した。4,300語が登録されているが、さらに語数を倍増する計画がある⁽¹⁷⁾。ロマンシュ語話者は英語を学習する際、これまではドイツ語を通して習っていたが、今後は直接英語を習えるためこの辞書は歓迎されているという。それに伴い共同体メンバーのドイツ語から英語へのシフトの可能性もあるかもしれない。

インターネットの発展は優勢な言語、特に英語の勢力拡大にこれまでに比べものにならないくらい寄与した。その反省から少数言語にとって意外なことが起きている。マイクロソフト社が「少数言語対応特別プログラム」で

ロマンシュ語対応のソフトを 2009 年の秋にも完成させるという⁽¹⁸⁾。ロマンシュ語を話す人々にとっては朗報である。またロマンシュ語を学習したいという人にも有益なソフトとなる可能性を秘めている。しかし採算が取れないと判断したとき掌を返すのが、この業界の常識である。見守っていく必要がある。

7 言語的姿勢

ドイツ語圏のほとんどの州では、フランス語は小学 5 年生から習うが、これまで中学校から習っていた英語を小学 3 年生から導入すること決めた。2012 年まで義務化するという。ドイツ語圏がこのように決定を下したのは、チューリッヒなどのドイツ語圏の地域に国際企業が進出しているからである。しかし教えることになる小学校教員の負担増や教育を受ける側の子供の負担増など問題が多い。

また、ドイツ語圏で英語がフランス語より早く導入されることに、フランス語圏の人々は反対している。ちなみに、フランス語圏ではドイツ語導入は小学 3 年生から、英語は中学校からである。小中学校での言語教育は特に重要なので⁽¹⁹⁾、ドイツ語圏の決定は言語的安定を続けてきたスイスに亀裂を生じさせる懸念がある。3 節であげた表から分かるように、ロマンシュ語を話す人口より英語を話す人口が増えている。英語の話者は 10 年で 12,600 人増えたが、今後も増加することが予想される。逆にロマンシュ語は 10 年で 4,500 人減少している。

Prout (ch. 5, p. 22) は、ロマンシュ語の保護・促進政策が他言語のモデルになり得ると述べている。彼がその理由としてあげているのは、次のようなものである。

- ・ロマンシュ人は多数派から政治的及び文化的認知を受けている。
- ・彼らは高いレベルで社会経済的發展をしている。
- ・彼らは新しい挑戦と機会を示す通信革命に参加している。

確かに少数言語で衰退の危機に陥っている言語を観察すると、上のような恵まれた環境にある言語は極めて少ない。しかし外的環境がどんなに良いものであっても、ロマンシュ語が衰退するだろうと予測されているのはなぜか。大きな理由が内部にある。保護・促進をどれだけ共同体の人々が望んでいるのかというのが大きな理由である。ロマンシュ語圏の場合、よりよい経済的環境を求めて、共同体内部の人々がドイツ語を求めているという事実がある。しかし、これを誰が非難できようか。

8 まとめ

本稿は衰退の道を辿っているロマンシュ語の現状と保護活動について述べた。「元気な言語」(healthy languages)⁽²⁰⁾ばかりと接しては見えないものが、少数言語と接すると見えてくることがある。健康を害して初めて健康の有難味が分かるようなものである。

ロマンシュ語は消滅するだろうと言われている言語の一つである。現在は、保護活動によってかろうじて維持されている言語と言えるだろう。スイス国内の言語政策によって保護されているが、保護活動の中心になっているのは Lia Rumantscha である。Lia Rumantscha はナショナリズムを煽るやり方ではなく、中立的立場から少数言語の維持活動を行っているように思える。スイスという特異な国の少数言語維持活動に、我々は注目していく必要がある。そこには、経済的に有用でない言語が生き延びる道を示唆しているように思われるからである。

(注)

- (1) Prout(ch. 5, p. 11)
- (2) <http://www.bfs.admin.ch/>
- (3) 当時の話者数は約 46,000 人と推定される。
- (4) カルヴェ (2000: 117)
- (5) 森田 (2000: 200)
- (6) <http://www.bfs.admin.ch/bfs/portal/en/index/themen/01/05/blank/key//sprachen.html>
- (7) “A small speech community is always at risk. A small population is much more vulnerable to decimation than a larger one.” —UNESCO, *Language Vitality and Endangerment* (p. 9)
- (8) http://wpedia.goo.ne.jp/enwiki/Romansh_language
- (9) 亀井他編 (1992: 1071)
- (10) テレビの普及で標準ロマンシュ語が広まり、ロマンシュ語としての地域間の統一は強くなってきている、とする学者もいる。(http://www.swissinfo.ch/)
- (11) Prout(ch. 5, p. 26)
- (12) *Language Endangerment and Vitality* は、世代間での言語伝達の状況を考慮して、危機言語の度合いを「安全 (5)」から「絶滅 (0)」の 6 段階に区分している。「明らかに危険」は「3」段階である。
- (13) <http://www.centerladin.ch/89 + M52087573ab0.0html>
- (14) Prout(ch. 1, p. 1)
- (15) <http://www.swissinfo.ch/jpn/...>
- (16) Prout(ch. 5, p. 13)
- (17) http://www.swissinfo.ch/front/British_wordsmith_truns_Romansh_into_English
- (18) <http://www.swissinfo.ch/jpn/archive.html?siteSect=883&sid=575105&ty=st>
- (19) Crystal(2000: 136)
- (20) Crystal(2000: 164)

REFERENCES

- アジェージュ, C. 2000. *Halte à la mort des langues*. 糟谷啓介訳『絶滅していく言語を救うために』. 白水社, 2004.
- Crystal, David. 2000. *Language Death*. London: Cambridge University Press.
- Prout, Erik. *Cultural Preservation in the Romansh Landscape: A Geography of the Romansh Movement*. (Dissertation).
(<http://geog.tamu.edu/~prout/LSU.html>)
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一編. 1992.『言語学大辞典』第4巻. 世界言語編 下-2. 三省堂.
- カルヴェ, L. J. 1996. *Les Politiques linguistiques*. 西山教行訳『言語政策とは何か』. 白水社, 2000.
- 森田安一監訳. 1997.『スイスの歴史』. 刀水書房.
- 森田安一. 2000.『物語 スイスの歴史』. 中公新書. 中央公論新社.
- 鈴木雅光. 2009.「*Language Vitality and Endangerment* について」. 東洋大学大学院紀要第45集.
- UNESCO Ad Hoc Expert Group on Endangered Languages. *Language Vitality and Endangerment*. 2003.
(<http://portal.unesco.org/culture/en/files/...>)
- 山田敏弘. 2009.「ラディン語ならびにロマンシュ語母語教育の現状と課題」. 岐阜大学教育学部研究報告 人文科学 第57巻 第2号.
(<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007094272/>)